

平成25年度 大学地域連携事業報告

平成26年3月31日

1. 担当

主担当 滋賀県立大学

副担当 滋賀医科大学、長浜バイオ大学、草津市

参画 放送大学、びわこ学院大学、滋賀短期大学

2. 委員会活動

○第1回（平成25年6月3日（月））

・今年度事業の進め方について

○第2回（平成25年9月19日（木）） ※甲賀市が参加

・今年度事業の進行状況と今後の進め方について

○第3回（平成25年10月29日（火））

・今年度事業の進行状況と今後の進め方について

○第4回（平成25年11月27日（水））

・「環びわ湖大学地域交流フェスタ2013」開催について

○第5回（平成26年2月4日（火））

・「環びわ湖大学地域交流フェスタ2013」の振り返り

・本年度の事業まとめについて

・来年度の事業計画・体制について

3. 大学地域連携課題解決支援事業について

| 自治体 | 提案団体 | 取組テーマ | 連携大学 |
|-----|------------------------|--|---|
| 甲賀市 | 甲賀市 教育委員会 | 『史跡紫香楽宮跡の活用に関連した 活用すべき地域資産の提案について』 | 滋賀県立大学人間文化 学部（中井教授）、 龍谷大学国際文化学部 （須藤教授、除教授） |
| 甲賀市 | 甲賀市 産業経済部 観光推進室 | テーマ：『地域がめざす観光ホスピタ リティーとは！』 | 立命館大学経済学部（金 井教授） |
| 草津市 | 草津市 総合政策部 広報課 | 『フェイスブックを活用した効果的 な市政情報の発信について』 | 立命館大学情報理工学 部（奥助教） |
| 草津市 | 玉川学区ま ちづくり協 議会 | 『玉川っ子検定 ～わがまち玉川 の魅力発見～』 | 立命館大学経営学部（佐 藤教授） |
| 大津市 | 大津市 こども福祉部 福祉政策課 | 大学生と創る地域の福祉力～子育て 支援を中心としたネットワークづく り～ | 龍谷大学社会学部（村田 講師） |

| | | | |
|------|----------------|-------------------------------|--------------------|
| 長浜市 | 浅井湯田学区地域づくり協議会 | 『「浅井湯田学区地域づくり協議会」の活動の活性化』 | 滋賀県立大学環境科学部（高橋准教授） |
| 東近江市 | 東近江市産業振興部農林水産課 | 『(農産加工品等) 地域資源掘り起しと活用』 | 滋賀県立大学（上田助教） |
| 彦根市 | 彦根市教育委員会文化財課 | 『彦根城中堀に自生するハス・オニバス開花にかかる生態調査』 | 滋賀県立大学環境科学部（浦部教授） |

※報告書参照

4. 「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2013」の開催について

- (1) 日 時 平成 25 年（2013 年）12 月 14 日（土）13:00～17:30
- (2) 場 所 龍谷大学瀬田キャンパス
- (3) テーマ 地域に根ざす人づくり
- (4) 参加者 県内の大学関係者、学生、地域および自治体関係者など約 170 名
- (5) プログラム

- ①開会挨拶（仁連孝昭・代表幹事/大学地域連携事業委員会委員長）
- ②基調講演「地域と連携した取り組みの成果と課題～大学コンソーシアム石川の事例～」
（池田幸應・金沢星稜大学教授／大学コンソーシアム石川地域連携専門部会長）
- ③ポスター発表 20 団体（7 団体が奨励賞受賞）
- ④実践交流会（交流セッション）
 - ・地域の課題解決と人材育成
 - ・地域が豊かになる仕事と暮らし
 - ・大学地域連携、その課題と方向
 - ・学生支援事業参加学生による報告

⑤全体交流会

※報告書参照

5. 大学地域連携ネットワーク事業について

大学と博物館との連携を発展させ、具体的事業を実施することを目指して取り組みを進めた。主な取り組みは以下の通りである。

(1) 滋賀県博物館協議会（以下、博物館協議会）と連携協力に関する協定書の締結

平成 25 年 7 月 25 日に滋賀県公館において、博物館協議会の篠原徹会長、川口清史理事長および関係者が出席して協定締結式を実施した。この連携協力協定は、滋賀県における人的・知的資源の交流・活用を図り、教育・文化、人材育成、まちづくり等の分野で協力し合い、地域の発展に寄与することを目指している。

(2) 滋賀県の博物館・美術館の外国人利用促進事業

平成 25 年度文化庁が公募した「文化芸術振興費補助金事業」に博物館協議会が標記テーマで申請して採択されたので、当コンソーシアムも博物館協議会と連携して取り組んだ。

① 「滋賀のミュージアムガイドブック(英語版)」の制作

外国人留学生 4 名（スリランカ、タイ、中国、マレーシア）と日本人学生 3 名の合計 7 名（滋賀県立大学 4 名、立命館大学 3 名）が参加して、学生の視点からお薦めする 5 コース（大津、湖東、甲賀、湖北、湖西）を紹介するため博物館・美術館の見学取材と原稿作成を行い、平成 26 年 3 月に完成した。各大学や自治体などに無料配布し活用している。

② 滋賀の博物館・美術館逸品展～美と歴史のおもてなし～への協力

平成 26 年 1 月 31 日～2 月 2 日まで、京都文化博物館を会場に「滋賀の博物館・美術館逸品展～美と歴史のおもてなし～」が開催された。この企画は博物館協議会と当コンソーシアムが共催し、滋賀の魅力を海外に向けて発信する事業の一環として開催した。期間中県内大学から 10 名の留学生が参加して、受付や来場者の案内等を担当した。留学生にとっても日本の歴史や文化を体験する貴重な機会となり、大変好評であった。

(3) 平成 26 年度事業に向けた取り組み

平成 26 年度文化庁が公募した「地域と協働した美術館・歴史博物館創造事業」に博物館協議会が申請して採択された。事業テーマは「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」で、予算額は約 430 万円である。今後博物館協議会と打ち合わせを行い、実施計画の具体化を図る予定である。

(4) 第 4 回環びわ湖大学地域交流フェスタへの参加

平成 25 年 12 月 14 日、龍谷大学瀬田学舎で開催された「第 4 回環びわ湖大学地域交流フェスタ」の第 2 セッション「地域が豊かになる仕事を暮らしを考える」に参加して、意見交換を行った。このセッションは、地域が豊かになるとは、人々が価値あると評価する仕事が増えること、人々の心が温かくなる暮らしが行われることである。地域が豊かになる仕事と暮らしとは実際にどのようなものか、そうした仕事と暮らしをしている人々の考え方や行動とはどのようなものか、を考え、意見交換を行った。

当日参加されたパネリストは、下記の 5 名である。（敬称略）

コーディネータ：肥塚浩・立命館大学経営学部教授

パネリスト：内崎直子・大阪ガス株式会社近畿圏部、大隅直人・大隅書店代表、

笠井賢紀・龍谷大学社会学部専任講師、廣部里美・NPO 法人百菜劇場

平成25年度 学生支援事業報告

平成26年3月31日

1. 担当

主担当 立命館大学

副担当 滋賀大学、成安造形大学

参画 びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀文教短期大学、放送大学

2. 事業計画

- ①基本的に過去4年間の事業を踏襲することとし、次の3項目を目的とした1泊2日の宿泊研修等を中心とした事業を計画する。
 - ア、地域の人々と交流を通して地域を理解する。
 - イ、ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。
 - ウ、学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。
- ②滋賀の魅力再発見（歴史や自然以外の魅力を含む）や学生主導による学生交流企画の提案（外国人留学生との交流を含む）を行う。
- ③大学地域連携事業と連携し、大学地域交流フェスタ等において学生支援事業の成果報告を行う。

3. 研修概要

2013年度学生支援事業では、「ビバ! BIWA! びわこ! ～琵琶☆交流～」をスローガンに、県内12大学、短期大学の学生61名（内、留学生9名）と教職員13名の合計74名が参加した。日程は9月28日（土）～29日（日）の1泊2日で実施した。

1日目は沖島で清掃ボランティアを行った後、地引網、植樹・運動会準備、机・椅子製作の3グループに分かれて体験を行った。その後、西福寺の住職より沖島の歴史についてお話いただいた。「地引網体験」では、地元の漁業組合の方にご協力いただき全員で網を引っ張る昔ながらの漁業を体験させていただいた。とれた魚のほとんどがブラックバスやブルーギルの外来種で、これらが琵琶湖の生態系に及ぼす影響力を肌で感じた。「植樹・運動会準備」では、地元の方と一緒に、金木犀とサザンカを小学校の校庭に植えた。その後、翌日に開催される運動会の準備を地元の方と一緒に行った。「机・椅子製作」は、例年学生支援事業でお世話になっている沖島の方々に何か恩返しをしたいという学生の想いと沖島の方々の希望が合致して実現した取り組みである。ニス塗りや組み立てを学生が行い、完成した机・椅子を沖島小学校に寄贈し、大変喜んでいただいた。

1日目夜の交流会では、グループ対抗のクイズ企画を行った。滋賀県の地理や歴史に関するクイズが中心に出題され、大いに盛り上がった。

2日目は、「長浜の黒壁スクウェアでのガラス細工体験教室」と「ブルーメの丘、安土城跡巡り」の2コースに分かれて活動しました。長浜の黒壁スクウェアでは、ガラス細工の体験

教室、建物の有効活用等、滋賀県の観光業を盛り上げるためのこれまでの努力、工夫を学ぶことができた。

安土城跡の訪問では、滋賀の歴史を感じた。また、ブルーメの丘では、滋賀県の農業、畜産業を考える良いきっかけとなった。

4. 宿泊研修総括

宿泊研修実施後のアンケート結果を踏まえ、本支援事業の目的を達成できたかを中心に分析を行う。

(1) 宿泊研修全体

- ①参加学生の94%が滋賀県への関心が高まったと回答
- ②参加学生の97%が学生支援事業の参加に満足と回答。

(2) 「1. 事業計画3項目の目的」の達成度

以下の通り、アンケートの自由記述を抜粋し、達成度を検証する。

①地域の人々と交流を通して地域を理解する。

(滋賀県に関して)

- ・滋賀県が地元ということで元々関心はあったが、自分が普段行かないような場所や、通り過ぎてしまうだけの場所に立ち寄ることで新しい興味が生まれた。
- ・今回の研修では留学生も参加していて、好奇心が旺盛で刺激を受けたこともあり、自分が住んでいる滋賀県についてもっと知っていないと恥ずかしいなと感じた。
- ・滋賀で生まれ育って19年だが、まだまだ知らない滋賀の魅力が沢山あることを知った。

(沖島に関して)

- ・島の住民は源氏の末裔であることに興味を持ち、滋賀県の歴史、ひいては日本の歴史に更に関心が深まった。
- ・地引網は普通に暮らしているだけでは絶対に体験できないことだと思うので、そういった貴重な体験をすることができてよかった。
- ・地域の方との人の生活の大変さを学び、沖島の地域コミュニティの強さを知ることが出来た。こうした地域の魅力を大切にしていくことが地域を持続可能な発展させていくことにつながると思う。是非沖島の学校や自治体を存続させてほしいです。

(長浜に関して)

- ・長浜には初めて行ったのですが、こんな良い観光名所があるとは知らなかったなので、また行きたいです。

(ブルーメの丘に関して)

- ・ブルーメの丘では、初めてアルパカという動物をみた。また、ソーセージ作りの体験が面白かった。

②ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。

- ・ごみ拾いなどボランティア活動を通じて、自ら環境問題について考えました。

- ・台風の影響でわらが流れ着いていた。自分の行動がどのような影響を及ぼすかわからないことを学んだ。

③学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。

- ・様々な体験を通して他大学の生徒と仲良くなることができました。
- ・他大学の学生と協力してゲームに取り組むことができ、他大学との仲が深まったと感じた。
- ・普段交流の機会が少ない人が集まって、楽しく積極的に関わりあえていたと思う。

上記内容の通り、多くの参加学生は宿泊研修を通じ、様々な体験をし、その体験や地域住民、他大学の学生との交流からたくさんのことを学んでいるといえる。また、本支援事業の目的についても、アンケートの自由記述の内容から一定達成できているといえる。

5. 環びわ湖大学地域交流フェスタ2013成果報告

宿泊研修終了後、担当者会議を行い、発表の形式や分担を決定し、担当グループ別に資料の作成、発表者の選出、リハーサル等の準備を行い、本番に備えた。学生達がどのような思いで研修に参加し、研修を通じてどのようなことを学んだのか、学んだことがその後の大学生活でどのように活かされているのかを中心に報告した。詳細は『環びわ湖大学地域交流フェスタ 2013 「地域に根ざす人づくり」』に記載している。

6. 学生支援事業事務局総括（次年度に向けた課題）

- (1) 学生支援事業担当者（学生）の選出方法の見直し
 - ・各大学共通の募集ガイドラインの作成
 - 原則各大学において、昨年度経験者1名の選出を行い、中心的役割を担ってもらう。
 - 成果報告会を含めた年間活動計画を募集の時点で具体的に示す。
- (2) 学生支援事業担当者会議の定例化（開始当初に毎月第〇週●日と設定する）
- (3) 主担当大学、副担当大学、参画大学の役割分担の明確化
- (4) 参加大学の学生の役割分担の明確化
- (5) 宿泊研修前の沖島島民との事前交流
- (6) 成果報告会への関わり方を見直し
 - ・学生支援事業にご協力いただいた方々を招待する。
 - ・従来の講演形式ではなく、パネルディスカッション等、参加者に気軽に聞いてもらうことができ、報告者と参加者が交流できるような形式を行えないかの検討を行う。

以上

平成25年度 高大連携事業報告

平成26年3月31日

2013年度 高大連携事業委員会

主担当 滋賀医科大学

副担当 立命館大学

参画大学 聖泉大学、びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀文教短期大学

(取組状況)

1. 滋賀県公立学校教員10年経験者研修への講師派遣と会場提供

日時：8月5日(月) 13:30~16:30

会場：滋賀医科大学 臨床講義室2

講座テーマ：いじめに関わる心の障害

講師：滋賀医科大学 地域精神医療学講座 稲垣貴彦 特任助教

〃 精神医学講座 西川公平 氏

受講者数：19名(15校)

2. 「県政週刊プラスワン」への取材協力

滋賀県広報課からの依頼により、以下の取材に協力。

番組名：県政週刊プラスワン夏休みスペシャル

「うおーたんのわくわく子ども体験隊」

内容：滋賀県内の大学紹介

協力大学：滋賀医科大学、びわこ成蹊スポーツ大学

放送日：8月10日(土) 21:00~21:20

放送局：びわ湖放送

出演者：うおーたん(滋賀県イメージキャラクター)

探検隊員2名(子役・小学校高学年の男女)

滋賀医科大学及びびわこ成蹊スポーツ大学の教職員、学生

以上

平成 25 年度 就職支援事業報告

平成 26 年 3 月 31 日

平成 25 (2013) 年度の就職支援事業は、学生の就職支援に直結する合同企業説明会を中心に、昨年度まで実施してきた事業を踏襲し実施した。そして、今年度は、新たに行政、経済団体との連携に努め、加盟大学の学生や県内企業にとって、より有効的な事業となるような取り組みを行った。

記

1. 就職支援事業委員会校

主担当校 龍谷大学

副担当校 滋賀県立大学

参画大学 聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ学院大学、滋賀短期大学

2. 平成 25 (2013) 年度就職支援事業

1) 合同企業説明会

滋賀県内の優良企業・事業所を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングが実現するために「合同企業説明会」を実施した。実施にあたっては、学生にとって効果的なものを目指し、滋賀県、大津市、長浜市、米原市、経済団体などと連携をとりながら、県・市・経済団体が開催する合同企業説明会と共催として取り組んだ。

① 湖北会場

- ・担当校：長浜バイオ大学
- ・開催時期：平成 25 (2013) 年 11 月 8 日 (金) 11:00～16:30
- ・開催場所：長浜バイオ大学体育館
- ・主 催：長浜市、米原市 (湖北就活ナビ実行委員会)
- ・共 催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加者数：232 名
- ・参加事業数：56 社 (求人件数：210 件)

② 湖東会場

- ・担当校：滋賀県立大学
- ・開催時期：平成 25 (2013) 年 8 月 2 日 (金) 10:00～16:00
- ・開催場所：ホテルニューオウミ (近江八幡市)
- ・主 催：ハローワーク東近江、近江八幡商工会議所、八日市商工会議所、東近江商工会、東近江地域雇用対策協議会
- ・共 催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加者数：171 名 (面接件数：327 件)
(新卒：129 名内訳：男子 75 名、女子：54 名、既卒：42 名 内訳：男子 48 名、女子 4 名)
- ・参加事業数：33 社 (求人件数：44 件)

③ 湖南会場

- ・担当校：龍谷大学、滋賀短期大学
- ・開催時期：平成 25 (2013) 年 9 月 2 日 (月) 10:00～16:00
- ・開催場所：びわ湖ホテル

- ・主 催：大津市
- ・共 催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク大津
- ・参加者数：286名
(新卒：241名内訳：男子142名、女子：99名、既卒：45名 内：男子37名、女子8名)
- ・参加事業数：52社(求人数：218件)

④ 湖東会場（新規）

- ・開催時期：平成25（2013）年9月18日（水）12:30～16:30
- ・開催場所：碧水ホール
- ・主 催：甲賀市、ハローワーク甲賀
- ・協 力：甲賀市商工会、甲賀市工業会、甲賀市企業啓発推進協議会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加者数：144名（内訳：新卒100名、既卒44名）
- ・参加事業数：25社

⑤ 湖南地区（新規）

- ・開催時期：平成25（2013）年10月15日（火） 13:30～16:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主 催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、おうみ未来サポートセンター
- ・協 力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加者数：308名（内訳：新卒229名、既卒79名）
- ・参加事業数：75社

⑥ 滋賀県内大学の留学生就職面接会

- ・開催時期：平成25（2013）年6月20日（木）10:00～16:00
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
滋賀大学、大津サテライトプラザ
- ・参加企業：7社
- ・参加者：21名
- ・参加大学：4大学（滋賀大学、立命館大学、長浜バイオ大学、龍谷大学、大阪市立大学）
- ・出身国：中国、韓国、インドネシア、ハンガリー、メキシコ

2) 滋賀県企業人事担当者と大学就職担当者との情報交換会

年々変化する昨今の就職環境を踏まえ、経済団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）と連携し、企業の人事担当者と大学の就職・進路支援担当者が意見交換会を行った。本事業を通じて、経済団体及び企業と大学間の距離が縮まり、よりよい交流となった。

平成25年度より就職支援事業委員会と経済団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）が定期的に情報交換を行い、より密接な関係構築が図れた。

① 第1回情報交換会

- ・担当校：(主担当校) 龍谷大学、(副担当校) 滋賀県立大学
- ・開催時期：平成25年10月7日（月）15:00～19:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル 3階「慶雲の間」
- ・主 催：滋賀経済産業協会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：23社

- ・参加大学数：10 大学（参加人数：12 名）

<スケジュール>

- 15:00～17:00 行政・企業・大学との意見交換会
- 17:00～19:00 懇親会

② 第2回情報交換会

- ・開催時期：平成26年1月24日（金）13:00～17:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：労働局、滋賀県中小企業団体中央会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：28社（参加人数：28名）
- ・参加大学：9大学（参加人数：9名）

<スケジュール>

- 13:00～14:00 （国・滋賀県）労働局との情報交換会
- 14:30～17:00 行政・企業・大学との情報交換会
- 18:00～20:00 懇親会

③ 第3回情報交換会

- ・開催時期：平成26年3月3日（月）15:00～19:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀経済産業協会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：12社（参加人数：13名）
- ・参加大学：8大学（参加人数：11名）

<スケジュール>

- 15:00～17:00 行政・企業・大学との意見交換会
- 17:00～19:00 懇親会

3) 大学就職担当者間の情報交換会・研修会

近年、多様化する就職活動において、学生への就職支援を行っていく上で、担当スタッフの研鑽は必要不可欠となってきた。また、学生のニーズ、企業のニーズが多様化している昨今では、大学間における情報交換は貴重な支援策のひとつとなっている。このことから、加盟大学の就職担当者が一堂に集まり、外部から講師を招き、話題提供に基づいた意見交換と各大学における先駆的な支援施策等の情報交換を兼ねた研修会を開催した。

- ・担当校：（主担当校）聖泉大学、（副担当校）びわこ学院大学
- ・開催時期：平成25（2013）年9月12日（木）13:30～19:30
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局 会議室
- ・参加人数：13名（10大学）

<スケジュール>

1. 研修会 13:30～15:00

- ・議題：「今の若者をめぐる雇用環境と就職支援のあり方を考える」
「全身就職」から「半身就職」への誘い
- ・講師：笹尾 達朗氏（NPO法人あったかサポート 常務理事）

2. 情報交換会 15:00～17:00

- ・平成 25 年度就職支援事業委員会の事業説明
- ・承合事項
 - ① 保護者向けの就職支援行事について
 - ② 就職活動状況の把握について
 - ③ 就職担当部署のインターンシップの関わりについて
 - ④ 資格支援への取り組みについて

3. 懇親会 17:00～19:30

4-1) 学生を対象とした就職活動に活かす企業訪問会

滋賀県内には多くの優良企業があるが、学生の認知度は低く、就職活動にてよりよいマッチングに繋がっていない。今回の企業訪問を通じて、3 年次生については、多くの優良企業を知る機会となり、就職活動時の企業の選択肢を広げるきっかけとなった。また、低年次生には「就職すること」「働くこと」等についての考える機会となった。

- ・担当校：(主担当) 長浜バイオ大学、(副担当) 龍谷大学

① 第 1 回

- ・日時：平成 25 (2013) 年 9 月 10 日 (火)
- ・訪問企業：株式会社たねや、株式会社近江兄弟社
- ・参加者数：16 名 (5 大学)

② 第 2 回

- ・日時：平成 25 (2013) 年 9 月 19 日 (木)
- ・訪問企業：湖北精工株式会社、高橋金属株式会社、新江州株式会社
- ・参加者数：17 名 (5 大学)

③ 第 3 回

- ・日時：平成 25 (2013) 年 11 月 26 日 (火)
- ・訪問企業：オプテックス株式会社、株式会社国華荘 びわ湖花街道
- ・参加者数：13 名

4-2) 学生を対象とした就職活動に活かす講演会

「就職することとは」「働くこととは」どういうことかを考える場として、低年次生から就職活動年次生を対象に湖北(彦根)会場にて講演会を開催した。講演会を通じて「就職すること」「働くこと」について一緒に考える機会となり、低年次生には就職活動だけでなく、就職活動に繋がる学生生活の過ごし方を知る機会となった。

- ・日時：平成 26 年 3 月 11 日 (火) 13:00～14:30
- ・場所：大学サテライトプラザ彦根 (アルプラザ彦根)
- ・定員：50 名 (先着順)
- ・参加者：28 名
- ・対象：大学 1～3 年、大学院修士 1 年、短大 1 年
- ・講題：内定をもらえる人・もらえない人
—企業が求める人材となるために—
- ・講師：杉村泰宏氏 (シンク・アンド・アクト(株)代表取締役)

5) 滋賀県男女共同参画課と共催によるワーク・ライフ・バランス講演会の開催

近年、「くるみんマーク」等の導入によりワーク・ライフ・バランスを考えた働き方が、企業や団体、行政機関等においても考えられるようになってきた。しかし、まだまだ女性は結婚、出産により、一旦仕事をやめ、キャリアが中断するなど、仕事と家庭の二者択一を余儀されている現状がある。このことから、学生が卒業後の自分の姿をイメージでき、仕事と子育ての両立を諦めることなく、自身の望む生活とキャリアを実現できるよう、就職支援を目的とした講演会を開催した。参加学生等からは、新たな働き方についての知る機会となったと好評であった。

- ・担当校：(主担当校) 滋賀県立大学、(副担当校) 滋賀短期大学
- ・主 催：滋賀県男女共同参画課、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・開催時期：平成 25 (2013) 年 11 月 22 日 (金) 17:00~18:30
- ・開催場所：龍谷大学瀬田キャンパス 8号館 101 教室
- ・講演者：安藤哲也氏 (NPO 法人ファザーリング・ジャパンファウンダー／副代表)
- ・演 題：「あなた自身が切り開く、これからの生き方とキャリア」
- ・主 催：滋賀県男女共同参画課、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加人数：50 名

6) 企業採用経験者による模擬面接会

就職環境が厳しいなか、昨年度に引き続き、新卒者対象者への就職支援策として滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会 (主催) に協力いただき、加盟大学を対象に企業採用経験者による模擬面接会を開催した。今年度は学生一人ひとりの特徴 (長所) を再確認していただくことを目的として模擬面接会を開催した。

- ・担当校：(主担当校) びわこ学院大学、(副担当校) 聖泉大学
- ・主 催：滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会
- ・開催時期：平成 25 (2013) 年 6 月 5 日~6 月 27 日
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアムの加盟大学内
- ・実施校：5 大学 (びわこ学院大学、滋賀短期大学、龍谷大学、滋賀大学、滋賀県立大学)
- ・参加者数：23 名 (男性 9 名、女性 14 名)

以 上

平成25年度 単位互換事業報告

平成26年3月31日

1. 担当は以下の通り

主担当校 滋賀大学
副担当校 龍谷大学

2. 取り組みの経過について

2012年11月15日に環びわ事務局会議室に於いて単位互換事業委員会及び教務担当者会議合同会議を開催し、2013年度の単位互換事業の進め方（「ガイドライン」）について協議・決定し、2013年度の事業を開始した。

2013年1月から、各大学からの提供科目の集約、シラバス原稿の集約を行い、4月1日に環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について（2013年度）をHPに掲載した。また、募集チラシ、ポスターを作成し、各大学に配布した。4月上旬から、各大学で募集ガイドランスと出願受付を行い、4月末に科目提供大学で受講者を決定し、各大学で単位互換科目の授業が行われた。

7月5日に同事務局会議室に於いて単位互換事業委員会及び教務担当者会議の合同会議を開催し、2013年度の単位互換事業の状況報告を行うとともに、幹事校大学より提案された受講生の増加方策として提供科目数の見直しについて検討を行った。これは、集中講義や滋賀らしい科目というように提供科目を検討する考え方から発想を転換し、学生に授業科目を選択させようとするもので、自大学学生と同様に原則全科目を環びわ学生へ提供しようとするものである。意見交換の結果、全大学の方向が一致せず案を前向きに検討することには至らなかったが、各大学で集中講義を含め可能な授業科目を検討した上で提供科目数の増を図っていくことが確認された。また、広報活動の点検の一環で、学生への案内用に作成しているチラシ及びポスターについて、提供科目情報を掲載していくことや、デザイン・写真の見直し検討を進めていくことが確認された。

11月21日に合同会議を同事務局会議室で開催し、7月5日に確認した方針を踏まえ、2014年度の開講に向けて12大学がそれぞれ集中講義科目の提供の可能性や提供科目数の確保等を検討した上で、2014年1月27日期限の提供科目の報告・集約を行うことが確認された。また、チラシ及びポスターの見直し検討について、成安造形大学より提案のあったデザイン案を採択し、チラシ及びポスターを完成させた。

さらに2015年度版のチラシの作成に関して、2014年度当初から1年間かけて見直しに向けて取り組んでいくことの提案が成安造形大学からあり、継続して検討していくことも確認された。

3. 単位互換事業の内容について

(1) 提供科目

2013年度の提供科目数は62科目（同一科目を複数の曜日時限に開講する場合に、それぞれを1科目として数えたもの）で、2012年度と比べて2科目減少した。集中講義は6科目で前年度より1科目増加し、滋賀らしい科目も14科目で前年度より1科目増加した。

なお、実質的な科目数（学生が選択できる科目数）は、2013年度は59科目、2012年度は60科目であり、1科目減少である。（提供科目一覧 別紙(1)参照）

(2) 受講科目及び受講者数

提供科目のうち、他大学生が出願し受講が許可された科目数は34科目であり、昨年より5科目増加した。受講率（＝受講科目数÷提供科目数）は55%で、昨年度（45%）からは少し増加となった。また、受講者が0名の大学が2校で昨年度（1校）より1校増加した。

2013年度の受講者数は4月24日現在で136件（実数95名）であり、昨年度からは14件（実数では増減なし）増加した。また、本年の出願数は160件であり、出願ベースでも昨年度に比べ38件増加している。なお、選考の結果定員超過等の理由により24件が受入不可となった。さらに、本年度も集中講義の人気は高く、集中講義6科目で51件の受講者数となり、特に「滋賀論」（前期集中）は20名の受講者を集めた。

なお、5月27日～6月10日まで追加募集を行ったが、出願者はなしであった。

また、8月26日～9月6日まで追加募集を行った結果、11件（実数7名）の出願があり受講者数は147件となった。

（提供科目数・受講科目数の推移、受講科目一覧、受講者数 別紙(2)(3)及び(4)参照）

(3) 大学別の送出件数・受入件数

大学別に「送出件数」「受入件数」を見ると、大学によっては「送出超過」「受入超過」の傾向が顕著になりつつある。各大学で送出と受入が均衡しながら全体として増加する状態が望ましいが、「送出のみ」「受入のみ」となりつつある大学もある。短期大学は、2年間で卒業する履修カリキュラムの制約から、出願が0件もしくは数件の状況が続いている。

2007年度は11大学からの送出しがあり、2008年度は9大学、2009年度は8大学と一時低迷したが、2010年度は10大学と若干回復したが、2011年度及び2012年度は7大学、2013年度は6大学と再び低下している。

(4) 成績取得状況

2013年度の成績取得状況は、受講者数147件のうち合格が99件(67%)という状況で、昨年度の受講者数は122件のうち合格が80件(66%)で合格者の比率が若干高くなった。また、本年度は不合格者48件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるもの(成績評価が「0」または「評価なし」)が32件であり、昨年度の不合格者42件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるものが34件と比べて状況は改善している。事務を担う科目提供大学の負担となるため、受講放棄・試験未受験をさせないように継続して働きかけが必要である。

なお、学期ごとの成績取得状況は、前期(春学期)科目91件のうち、合格が71件(78%)で、後期(秋学期)科目56件のうち、合格が28件(50%)である。

別紙

(1) 提供科目一覧

| 科目提供大学 | 科目番号 | 科目名 | 回生 | 単位互換定員 | 開講期間 | 曜日 | 時限 | 単位 |
|-------------|---------|------------------------|-----------------------------|--------|-------|------|----|----|
| 滋賀大学 | 01 | 日本の歴史 | 1以上 | 10名程度 | 秋学期 | 月 | 3 | 2 |
| | 02 | 教育と文化 | 1以上 | 10名程度 | 春学期集中 | | | 2 |
| | 03 | 欧米の文化 | 1以上 | 10名程度 | 春学期集中 | | | 2 |
| | 04 | 地理学からの問い | 1以上 | 10名程度 | 春学期 | 水 | 3 | 2 |
| | 05 | 経済学からの問い | 1以上 | 10名程度 | 春学期 | 水 | 2 | 2 |
| | 06 | 現代の企業と経営 | 1以上 | 10名程度 | 春学期 | 木 | 2 | 2 |
| | 07 | 数学的思考 | 1以上 | 10名程度 | 春学期 | 火 | 4 | 2 |
| | 08 | 近江の歴史 | 1以上 | 10名程度 | 秋学期 | 木 | 1 | 2 |
| | 09 | 滋賀大学で環境を学ぶ | 1以上 | 10名程度 | 秋学期 | 金 | 3 | 2 |
| | 10 | 東アジアの多様性の理解 | 1以上 | 10名程度 | 春学期 | 月 | 2 | 2 |
| | 11 | 彦根・湖東学 | 1以上 | 10名程度 | 秋学期集中 | | | 2 |
| 滋賀医科大学 | 12 | 医学概論I | 1以上 | 15名 | 前期 | 木 | 2 | 2 |
| | 13 | 医学概論II | 1以上 | 15名 | 後期 | 木 | 2 | 2 |
| | 14 | 臨床心理学 | 1以上 | 不問 | 前期 | 火 | 5 | 2 |
| | 15 | 臨床コミュニケーション学 | 1以上 | 30名 | 前期 | 金 | 3 | 2 |
| | 16 | 地域論 | 1以上 | 不問 | 後期 | 木 | 4 | 2 |
| | 17 | 睡眠学概論 | 1以上 | 10名 | 前期 | 金 | 1 | 2 |
| | 滋賀県立大学 | 18 | 環境マネジメント総論(人間文化学部・人間看護学部)※1 | 指定なし | 10名 | 前期 | 月 | 1 |
| 19 | | 環境マネジメント総論(環境科学部・工学部)※ | 指定なし | 10名 | 前期 | 月 | 2 | 2 |
| 20 | | びわこ環境行政論 | 指定なし | 10名 | 後期 | 月 | 3 | 2 |
| 21 | | 滋賀の自然史 | 指定なし | 10名 | 後期 | 月 | 5 | 2 |
| 22 | | 環境を考える | 1以上 | 若干名 | 前期 | 木 | 1 | 2 |
| 滋賀短期大学 | 23 | カラーコーディネート演習 | 1以上 | 若干名 | 後期 | 水 | 4 | 1 |
| | 24 | 子どもの保健 I b※2 | 1以上 | 若干名 | 後期 | 金 | 2 | 2 |
| | 25 | | | | | 金 | 3 | |
| | 26 | 秘書学概論※2 | 1以上 | 若干名 | 前期 | 水 | 1 | 2 |
| | 27 | | | | | 水 | 4 | |
| | 28 | 秘書実務 I | 1以上 | 若干名 | 前期 | 金 | 4 | 1 |
| | 29 | 秘書実務 II | 1以上 | 若干名 | 後期 | 金 | 4 | 1 |
| 滋賀文教短期大学 | 30 | 書道 I | 1以上 | 若干名 | 春学期 | 火 | 3 | 2 |
| | 31 | 書道 II | 1以上 | 若干名 | 秋学期 | 火 | 3 | 2 |
| 成安造形大学 | 32 | 美術理論 | 1以上 | 10名程度 | 前期 | 火 | 3 | 2 |
| | 33 | 文化史A | 1以上 | 10名程度 | 前期 | 木 | 2 | 2 |
| | 34 | 文化史B | 1以上 | 10名程度 | 後期 | 木 | 2 | 2 |
| | 35 | 近江学A | 1以上 | 10名程度 | 通年 | 土 | 2 | 2 |
| 聖泉大学 | 36 | 滋賀論 | 1以上 | 若干名 | 前期集中 | | | 2 |
| 長浜バイオ大学 | 37 | 基礎微生物学 | 1以上 | 5名以内 | 前期 | 月 | 1 | 2 |
| | 38 | 基礎生物学 | 1以上 | 5名以内 | 前期 | 月 | 2 | 2 |
| | 39 | 細胞生物学 I | 1以上 | 5名以内 | 後期 | 金 | 2 | 2 |
| | 40 | 遺伝子工学 | 2以上 | 5名以内 | 後期 | 水 | 5 | 2 |
| | びわこ学院大学 | 41 | ビジネスコミュニケーション | 1以上 | 5名程度 | 後期 | 木 | 1 |
| 42 | | 地域歴史学 | 1以上 | 5名程度 | 後期 | 水 | 3 | 2 |
| 43 | | 滋賀の環境 | 1以上 | 5名程度 | 後期 | 火 | 1 | 2 |
| 44 | | 東近江の地域学 | 1以上 | 5名程度 | 後期 | 火 | 1 | 2 |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 45 | 衛生・公衆衛生学 | 1以上 | 若干名 | 前期 | 火 | 1 | 2 |
| | 46 | スポーツバイオメカニクス | 1以上 | 若干名 | 後期 | 火 | 2 | 2 |
| 龍谷大学 | 47 | 教養教育科目特別講義「里山学入門」 | 指定なし | 10名 | 前期 | 月 | 3 | 2 |
| | 48 | 環境と人間A | 2以上 | 20名 | 前期 | 月 | 4 | 2 |
| | 49 | ジャーナリズム論 I | 2以上 | 不問 | 前期 | 火 | 2 | 2 |
| | 50 | 社会保険論 | 3以上 | 5名 | 前期 | 火 | 4 | 2 |
| | 51 | 生活の中の数学 | 指定なし | 15名 | 前期 | 水 | 3 | 2 |
| | 52 | 人間の心理と発達 | 2以上 | 不問 | 前期 | 木 | 4 | 2 |
| | 53 | 社会人類学 | 2以上 | 10名 | 後期 | 月 | 3 | 2 |
| | 54 | まちおこし論 | 2以上 | 不問 | 後期 | 火 | 2 | 2 |
| | 55 | びわ湖・滋賀学 | 2以上 | 不問 | 後期 | 木 | 1 | 2 |
| | 立命館大学 | 56 | ODA・国際援助論 E | 3以上 | 10名程度 | 夏期集中 | - | - |
| 57 | | 経営と女性 B | 2以上 | 10名程度 | 夏期集中 | - | - | 2 |
| 58 | | キャリア開発 B | 2以上 | 10名程度 | 前期 | 月 | 4 | 2 |
| 59 | | 心理学入門 TA | 1以上 | 20名程度 | 前期 | 水 | 2 | 2 |
| 60 | | 現代社会と法 TA | 1以上 | 20名程度 | 前期 | 木 | 4 | 2 |
| 61 | | 科学・技術と社会 C | 1以上 | 10名程度 | 後期 | 金 | 5 | 2 |
| 62 | | 生命科学と倫理 MA | 1以上 | 10名程度 | 前期 | 月 | 5 | 2 |

(2) 提供科目数・受講科目数の推移 <自大学への出願を除く>

| 科目提供大学 | | 滋賀大学 | 大滋賀医学科 | 滋賀県立大学 | 滋賀短期大学 | 短滋賀期大文 学教 | 大成安造 学形 | 聖泉大 学 | 大長浜 学才 | 大びわこ 学院 | スびわこ スポーツ 大学 | 龍谷大 学 | 大立命 館 | 全大 学計 |
|--------|-------|------|--------|--------|--------|--------------|------------|----------|-----------|------------|--------------------|----------|----------|----------|
| 2005年度 | 提供科目数 | 4 | 5 | 3 | 3 | 2 | 11 | 4 | 3 | 4 | 4 | 5 | 5 | 53 |
| | 受講科目数 | 2 | 4 | 3 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 2 | 2 | 3 | 1 | 24 |
| | 受講率 | 50% | 80% | 100% | 67% | 50% | 27% | 25% | 0% | 50% | 50% | 60% | 20% | 45% |
| 2006年度 | 提供科目数 | 4 | 5 | 3 | 7 | 4 | 11 | 4 | 3 | 2 | 2 | 8 | 9 | 62 |
| | 受講科目数 | 2 | 3 | 3 | 5 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 8 | 5 | 32 |
| | 受講率 | 50% | 60% | 100% | 71% | 25% | 18% | 25% | 33% | 0% | 50% | 100% | 56% | 52% |
| 2007年度 | 提供科目数 | 4 | 5 | 5 | 8 | 6 | 7 | 3 | 3 | 2 | 2 | 8 | 21 | 74 |
| | 受講科目数 | 4 | 3 | 3 | 6 | 4 | 5 | 1 | 0 | 2 | 2 | 6 | 11 | 47 |
| | 受講率 | 100% | 60% | 60% | 75% | 67% | 71% | 33% | 0% | 100% | 100% | 75% | 52% | 64% |
| 2008年度 | 提供科目数 | 3 | 5 | 3 | 9 | 4 | 7 | 3 | 3 | 2 | 7 | 8 | 12 | 66 |
| | 受講科目数 | 2 | 5 | 1 | 7 | 2 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 8 | 5 | 38 |
| | 受講率 | 67% | 100% | 33% | 78% | 50% | 57% | 67% | 0% | 100% | 0% | 100% | 42% | 58% |
| 2009年度 | 提供科目数 | 5 | 6 | 3 | 18 | 6 | 8 | 4 | 4 | 3 | 2 | 9 | 9 | 77 |
| | 受講科目数 | 4 | 4 | 1 | 7 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 6 | 4 | 33 |
| | 受講率 | 80% | 67% | 33% | 39% | 50% | 13% | 25% | 0% | 67% | 0% | 67% | 44% | 43% |
| 2010年度 | 提供科目数 | 5 | 6 | 2 | 9 | 3 | 4 | 5 | 4 | 3 | 4 | 8 | 11 | 64 |
| | 受講科目数 | 4 | 4 | 0 | 4 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 | 6 | 4 | 30 |
| | 受講率 | 80% | 67% | 0% | 44% | 67% | 50% | 40% | 0% | 33% | 25% | 75% | 36% | 47% |
| 2011年度 | 提供科目数 | 8 | 6 | 2 | 11 | 3 | 4 | 2 | 4 | 7 | 1 | 8 | 12 | 68 |
| | 受講科目数 | 7 | 3 | 2 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 6 | 5 | 32 |
| | 受講率 | 88% | 50% | 100% | 27% | 33% | 0% | 50% | 0% | 57% | 0% | 75% | 42% | 47% |
| 2012年度 | 提供科目数 | 7 | 6 | 2 | 10 | 3 | 4 | 1 | 4 | 7 | 3 | 8 | 9 | 64 |
| | 受講科目数 | 4 | 4 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 | 0 | 6 | 2 | 29 |
| | 受講率 | 57% | 67% | 100% | 10% | 67% | 25% | 100% | 25% | 71% | 0% | 75% | 22% | 45% |
| 2013年度 | 提供科目数 | 11 | 6 | 4 | 8 | 2 | 4 | 1 | 4 | 4 | 2 | 9 | 7 | 62 |
| | 受講科目数 | 7 | 5 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 8 | 2 | 34 |
| | 受講率 | 64% | 83% | 50% | 50% | 100% | 50% | 100% | 0% | 25% | 0% | 89% | 29% | 55% |

(3) 受講科目一覧

| 科目番号 | 科目提供大学名 | 科目名 | 受講者数 |
|------|----------|-------------------|------|
| 01 | 滋賀大学 | 日本の歴史 | 1 |
| 02 | 滋賀大学 | 教育と文化 | 11 |
| 03 | 滋賀大学 | 欧米の文化 | 11 |
| 05 | 滋賀大学 | 経済学からの問い | 1 |
| 08 | 滋賀大学 | 近江の歴史 | 1 |
| 09 | 滋賀大学 | 滋賀大学で環境を学ぶ | 3 |
| 11 | 滋賀大学 | 彦根・湖東学 | 8 |
| 12 | 滋賀医科大学 | 医学概論 I | 6 |
| 13 | 滋賀医科大学 | 医学概論 II | 7 |
| 14 | 滋賀医科大学 | 臨床心理学 | 2 |
| 15 | 滋賀医科大学 | 臨床コミュニケーション学 | 1 |
| 17 | 滋賀医科大学 | 睡眠学概論 | 4 |
| 20 | 滋賀県立大学 | びわこ環境行政論 | 2 |
| 21 | 滋賀県立大学 | 滋賀の自然史 | 4 |
| 23 | 滋賀短期大学 | カラーコーディネート演習 | 1 |
| 25 | 滋賀短期大学 | 子どもの保健 I b | 1 |
| 26 | 滋賀短期大学 | 秘書学概論 | 6 |
| 28 | 滋賀短期大学 | 秘書実務 I | 1 |
| 30 | 滋賀文教短期大学 | 書道 I | 1 |
| 31 | 滋賀文教短期大学 | 書道 II | 2 |
| 32 | 成安造形大学 | 美術理論 | 1 |
| 35 | 成安造形大学 | 近江学 A | 1 |
| 36 | 聖泉大学 | 滋賀論 | 20 |
| 42 | びわこ学院大学 | 地域歴史学 | 2 |
| 47 | 龍谷大学 | 教養教育科目特別講義「里山学入門」 | 4 |
| 48 | 龍谷大学 | 環境と人間A | 4 |
| 49 | 龍谷大学 | ジャーナリズム論 I | 3 |
| 50 | 龍谷大学 | 社会保険論 | 2 |
| 52 | 龍谷大学 | 人間の心理と発達 | 10 |
| 53 | 龍谷大学 | 社会人類学 | 5 |
| 54 | 龍谷大学 | まちおこし論 | 7 |
| 55 | 龍谷大学 | びわ湖・滋賀学 | 11 |
| 56 | 立命館大学 | ODA・国際援助論 E | 1 |
| 57 | 立命館大学 | 経営と女性B | 2 |
| 総計 | | | 147 |

(4) 受講者数

| 2013年度 | 学生所属大学 | | | | | | | | | | | | | 総計 |
|--------|-------------|--------|--------|--------|---------|--------|------|---------|---------|-------------|------|-------|-----|----|
| | 滋賀大学 | 滋賀医科大学 | 滋賀県立大学 | 滋賀短期大学 | 滋賀短期大学教 | 成安造形大学 | 聖泉大学 | 長浜バイオ大学 | びわこ学院大学 | びわこ成蹊スポーツ大学 | 龍谷大学 | 立命館大学 | | |
| 科目提供大学 | 滋賀大学 | | | | | | 6 | 6 | | | | 24 | 36 | |
| | 滋賀医科大学 | 1 | | | | | 2 | | | | | 17 | 20 | |
| | 滋賀県立大学 | 1 | | | | | | 3 | | | | 2 | 6 | |
| | 滋賀短期大学 | 1 | | | | | 2 | | | | | 6 | 9 | |
| | 滋賀文教短期大学 | | | | | | | 3 | | | | | 3 | |
| | 成安造形大学 | | 1 | | | | | | 1 | | | | 2 | |
| | 聖泉大学 | 1 | | | | | | | | | | 19 | 20 | |
| | 長浜バイオ大学 | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | びわこ学院大学 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | |
| | びわこ成蹊スポーツ大学 | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 龍谷大学 | 1 | | | | | | | | | | 45 | 46 | |
| | 立命館大学 | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | 3 | |
| | 総計 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 | 11 | 12 | 1 | 0 | 0 | 113 | 147 | |

II 2014年度単位互換事業

環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案に基づき、2014年度の開講に向けて、引き続き参加学生の増加を図るための方策や滋賀らしい科目の提供を行う必要がある。

- (1) 受講者数の増加方策として、各大学が夏期集中や土曜開講科目の充実、サテライト教室（大津駅前など）での開講を計画する。また、事務局および各大学が、学生に積極的に広報を行う。
- (2) 滋賀らしい科目を提供するため、各大学が近江学やびわ湖学などの滋賀らしさのある科目を開発・提供する。
- (3) e-learningによる科目提供について、さらに検討を加える。

2014年度の開講・出願スケジュールは、別添のとおりである。

《 2014 年度開講・出願スケジュール 》

| 月日 | 教務日程 | 備考 |
|------------------------|--|--------------|
| 1月27日(月) | 【開講】2014年度提供科目報告期限 | 所定フォーマット |
| 3月5日(水) 【厳守】 | 【開講】2014年度開講科目シラバス最終原稿締切 | |
| 3月中旬 | 【開講】2014年度「募集ガイド」HP掲載 | |
| 4月上旬 | 【出願受付】募集ガイダンス・出願受付 | |
| ～4月11日(金) | 【出願受付】出願受付 <各大学> ※許可発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。 | 各大学の状況に応じて設定 |
| 4月15日(火) 17:00【厳守】 | 【出願受付】「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学> | 所定フォーマット |
| 4月17日(木) ～4月22日(火) | 【出願受付】出願者の選考 <科目提供大学> | |
| 4月23日(水) 17:00【厳守】 | 【出願受付】選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学> | 所定フォーマット |
| 4月24日(木) ～4月25日(金) | 【出願受付】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。 | |
| 随時 | 【出願受付】受講登録 | 所属大学で随時 |
| 4月23日(水) ～5月8日(木) | 【追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提供大学> | |
| 5月9日(金) 17:00【厳守】 | 【追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学→事務局大学> ※夏期集中・後期科目を対象とする。 | 所定フォーマット |
| 5月15日(木) | 【追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学> | |
| 5月26日(月) ～6月9日(月) | 【追加募集】追加募集受付 <各大学> | 各大学の状況に応じて設定 |
| 6月12日(木) 17:00【厳守】 | 【追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学> | |
| 6月13日(金) ～20日(金) | 【追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学> | 所定フォーマット |
| ～6月24日(火) 17:00【厳守】 | 【追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学> | 所定フォーマット |
| 6月25日(水) ～7月1日(火) | 【追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。 | |

| | | |
|------------------------|--|--------------|
| 随時 | 【追加募集】追加募集許可者の受講登録 | 所属大学で随時 |
| 8月4日(月) ～8月12日(火) | 【再追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提供大学> | |
| 8月13日(水) 17:00【厳守】 | 【再追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学→事務局大学> ※後期科目を対象とする。 | 所定フォーマット |
| 8月22日(金) | 【再追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学> | |
| 8月25日(月) ～9月5日(金) | 【再追加募集】追加募集受付 <各大学>※許可発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。 | 各大学の状況に応じて設定 |
| 9月10日(水) 17:00【厳守】 | 【再追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学> | |
| 9月11日(木) ～9月18日(木) | 【再追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学> | 所定フォーマット |
| ～9月19日(金) 17:00【厳守】 | 【再追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学> | 所定フォーマット |
| 9月23日(火) ～9月30日(火) | 【再追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。 | |
| 随時 | 【再追加募集】追加募集許可者の受講登録 | 所属大学で随時 |

平成25年度 広報事業報告

平成26年3月31日

1. 担当は以下の通り

事務局

2. ホームページの管理・運営について

コンソーシアムのホームページを通して、各大学で開催されるイベント等の情報提供を行った。年度内において「お知らせ」記事を66件ホームページ上で掲載した。

情報内容の更新

- ① 事業委員会のページについて、平成25年度事業内容に更新した。
- ② 6月7日および3月27日の総会の決議を受けて、組織図、役員一覧、役員会議事録、財務状況を更新した。
- ③ 一部の大学について、紹介ページを更新した。
- ④ リンク集に滋賀県中小企業団体中央会(賛助会員)および関係機関として、S-NAVI 滋賀県の中小企業情報サイト、ヤングジョブセンター滋賀、滋賀・びわ湖ブランドネットワークを追加した。

なお、年度内のアクセスは29,000件(昨年度は27,619件)であった。

3. 広報資料の配布

コンソーシアムを紹介する資料として、昨年度に作成した、広報リーフレット「CAMPUS LIFE IN SHIGA 滋賀でデッカく学ぼう！」(A4×6P)について、変更点の資料を添付の上、必要に応じて配布した。

また、コンソーシアムの役員・幹事体制、会員一覧表、組織図、各事業委員会ごとの主な事業計画を抜粋した概要版も作成し、対外的な情報発信資料として配布した。

4. 事業委員会と連携した広報活動について

大学地域連携事業(大学地域連携課題解決支援事業、環びわ湖大学地域交流フェスタ)、学生支援事業(1泊2日宿泊研修)、高大連携事業(公立学校教員対象研修会)、就職支援事業(合同企業説明会、県内企業訪問バスツアーと就活合宿)、単位互換事業(互換科目の受講案内)について、各事業委員会と連携してホームページ掲載をはじめとした広報を行った。

(以上)

平成 25 年度 本法人全体に関わる事業報告

平成 26 年 3 月 31 日

1. 滋賀県からの受託事業：「大学連携政策研究事業（明日の滋賀を展望する調査研究）」

（1）事業概要

本調査研究は、「滋賀県基本構想～未来を拓く 8 つの扉～」(計画期間：平成 23～26 年度)が策定されて以降、滋賀県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化していることをふまえ、中長期的な人口・経済フレームの予測を行うとともに、時代の大きな潮流が滋賀県に及ぼす影響を予測分析し、今後対応すべき課題や目指すべき将来の姿を明らかにし、今後の政策の方向性の検討に資することを目的とした調査研究を実施した。

（2）調査研究方法

① 明日の滋賀を展望する調査（人口フレーム調査）

県域全体及び地域別に将来人口及び世帯数などについて推計を行うとともに、合計特殊出生率、社会移動、死亡率等についての動向や課題整理、今後の見通し等について特徴や傾向の分析を行う。

なお、人口フレーム調査は県全体及び市町ごとの詳細な人口推計を行うため、膨大なデータ処理及び実務作業を必要とすることから、「株式会社地域未来研究所」にデータ処理作業及び基礎的分析を委託して、それを基に取りまとめた。

② 明日の滋賀を展望する調査研究（経済フレーム調査）

経済フレームの推計は、産業関連ブロック、労働ブロック、分配ブロック、財政ブロック及び支出ブロックから構成される社会経済モデルを用いて実施した。本モデルは、基準とする年の値から目的とする将来の一時点を計算する静学モデルであり、将来に起こり得る大きな変化を想定し、推計に反映できる。

具体的には、5 種類の将来シナリオを想定し、それぞれのシナリオにおける社会経済の推計を行った。この調査手法を用いたのは、方向性の異なる複数の変化を想定することにより、潜在的な滋賀県の将来経済の幅を示すためである。

なお、経済フレーム調査を実施するにあたっては、「株式会社イー・コンサル」に専門的知識に基づく社会経済モデルを用いた実務を委託し、それを基に分析を行い取りまとめた。

③ 明日の滋賀を展望する調査研究（本体調査）

本調査は、国や各種研究機関の各種文献・データの分析などを通じて、中長期的な社会経済情勢の変化を定性的、定量的に明らかにし、これらの変化が滋賀県の経済、行財政、地域社会に及ぼす様々な影響を調査分析が必要となる。したがって、各大学から関連する専門分野の研究者の参加を得てワーキンググループを編成し、テーマごとに調査・検討を行い、滋賀の将来像についての課題を整理した。

(3) 調査研究体制

本調査研究は、以下のメンバーでテーマごとにワーキンググループを編成して実施した。

責任者 仁連 孝昭（環びわ湖大学・地域コンソーシアム代表幹事／滋賀県立大学理事・副学長）
中野 桂（滋賀大学経済学部教授）＜滋賀の将来像調査ワーキングリーダー＞
兼重 努（滋賀医科大学准教授）
林 宰司（滋賀県立大学准教授）
脇田 健一（龍谷大学社会学部教授）
島田 幸司（立命館大学経済学部教授）＜経済フレーム調査ワーキングリーダー＞
加藤 賢治（成安造形大学社会貢献部門主査）
富川 拓（聖泉大学人間学部准教授）
永田 宏（長浜バイオ大学バイオサイエンス学部教授）
佐藤 馨（びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部准教授）
谷口 浩志（びわこ学院大学 短期大学部ライフデザイン学科教授）
縄本 敏（環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局長）

なお、第9章（健康と医療・介護・福祉）の作成にあたっては、下記先生にもご協力をいただいた。

遠山 育夫（滋賀医科大学・分子神経科学研究センター教授）
畑野 相子（滋賀医科大学・臨床看護学講座（老年）教授）

(4) 調査研究経過

○平成 25(2013) 年 10 月 11 日（木）・18 日（木）

第 1 回ワーキング（調査実施計画、滋賀の将来像についての調査検討課題の整理）

○平成 25（2013）年 11 月 7 日（木）・11 日（月）

第 2 回ワーキング（人口・経済フレーム調査、滋賀の将来像について課題ごとに論点の整理）

○平成 25（2013）年 12 月 5 日（木）

第 3 回ワーキング（人口・経済フレーム調査、滋賀の将来像について課題ごとに論点の整理）

○平成 26(2014) 年 1 月 16 日（木）・17 日（金）

第 4 回ワーキング（テーマごとに課題整理と原稿準備、調査研究報告書の骨子素案の検討）

○平成 26（2014）年 2 月 27 日（木）

第 5 回ワーキング（調査研究報告書第一次原稿の検討）

○平成 26(2014) 年 3 月

各担当者ごとに調査研究報告書原稿作成

○平成 26(2014) 年 3 月 31 日（月）

明日の滋賀を展望する調査研究報告書（122 p）、同概要版（17 p）、同資料編（80 p）完成

2. 滋賀県からの補助事業：「標準化活動人材育成・普及啓発事業」

(1) 事業概要

企業が事業展開を進めるにあたり、統一（標準）規格を意識した製品開発など、標準化の視点が求められている。今後滋賀県において標準化活動を推進していくため、標準化活動を担う人材育成を図るとともに、標準化活動にかかる普及啓発の取り組みとして規格標準化公開講座を実施した。

(2) 事業内容：企画標準化公開講座の開催

日本規格協会や国際標準化に実際に取組んでいる企業と連携して、標準化の基礎知識、標準化政策、企業戦略と国際標準化、企業の取組事例紹介などをテーマとした規格標準化公開講座を実施した。なお、会場はいずれも当コンソーシアム会議室を使用。

<第1回公開講座>

日 時：平成 26（2014）年 2 月 19 日（水）14：00～16：00

テーマ：「標準化の基礎とビジネスへの標準化の活用について」

講 師：吉田 均氏（一般社団法人日本規格協会企画開発ユニット）

<第2回公開講座>

日 時：平成 26（2014）年 2 月 25 日（火）14：00～16：00

テーマ：「中小企業の環境サービス産業における国際標準化による海外戦略の取組について」

講 師：村田 弘司氏（株式会社日吉 代表取締役社長）

<第3回公開講座>

日 時：平成 26（2014）年 2 月 25 日（火）14：00～16：00

テーマ：「中小企業の国際標準化活動事例報告について」

講 師：板橋 雅巳氏（大成プラス株式会社 執行役員専務）

<第4回公開講座>

日 時：平成 26（2014）年 3 月 14 日（金）14：00～16：00

テーマ：「グローバル競争で勝つための標準化と特許戦略について」

講 師：後藤 吉正氏（名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部教授）

(3) 事業の成果

4回の公開講座に80名超の参加者があり、講師の説明に熱心に聞き入り、終了後も質問が相次ぐなど好評であった。こうした標準化活動にかかる人材育成および普及啓発事業を通して、標準化活動を担う人材育成を図るとともに、県内企業等の意識改革につなげることにより地域経済の活性化に寄与することができた。

3. 滋賀・びわ湖ブランド展への協力と参加

滋賀県は琵琶湖をはじめ豊かな自然に恵まれ、様々な歴史上の舞台となってきたことから全国有数の歴史文化財に恵まれており、また、近江牛や近江米、信楽焼など豊富な地域資源を有している。さらには環境先進県として取り組んできた実績、内陸工業地域としてのモノづくり技術が集積するなど、多彩な魅力にあふれた地域である。

しかし、滋賀県は「滋賀」と聞いた時に人々がそれぞれ思い浮かべるような「良好で分かりやすい」地域イメージが確立できておらず、琵琶湖以外の認知度が低く、全国的にイメージが希薄な状況を払拭できていない。

こうした状況を打開するため、平成 23（2011）年 7 月、滋賀・びわ湖ブランドネットワーク（注 1）が発足し、滋賀県の地域ブランドを確立し、地域イメージを向上させることによって、地域の活性化と県民の誇りづくりを図る取組を継続的に行ってきた。当コンソーシアムは発足当初から参加し、事業委員会を担当している。

（注 1） 環びわ湖大学・地域コンソーシアム、滋賀銀行、日本青年会議所滋賀ブロック協議会、滋賀・グリーン購入ネットワーク、滋賀経済同友会、滋賀県漁業協同組合連合会、滋賀県商工会議所連合会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県農業協同組合中央会、滋賀経済産業協会、びわこビジターズビューロー、びわ湖放送、文化・経済フォーラム滋賀、滋賀県の 15 団体が参加。

こうした取組の一環として、平成 25（2013）年 9 月に「滋賀・びわ湖ブランド展」を開催した。

（1）事業概要

平成 25（2013）年 9 月 21 日～25 日までの 5 日間、大阪ステーションシティ 5 階「時空の広場」において、「滋賀・びわ湖ブランド展～湖の恵み」が開催された。このブランド展は、琵琶湖の恵みを受けている京阪神地域住民に対し、琵琶湖だけではない滋賀の奥深い魅力を発信することにより、滋賀の地域ブランド確立、向上を目指すことを目的に開催した。

このブランド展では、①物産展ゾーン（滋賀の食と伝統工芸を PR）、②地域 PR ゾーン（滋賀県内各地の PR）、③ブランディングゾーン（学生アートによる滋賀ブランドの発信、滋賀の環境活動 PR）、④ステージ PR ゾーン（オール滋賀によるステージイベント）の 4 つのゾーンに分かれて、滋賀の魅力をアピールする多様な企画が多彩に実施された。延参加者数は約 36,000 人（主催者発表）。

（2）ステージ企画への参加

このステージ企画には、県内各大学の学生が参加し、若さと活力にあふれた元気いっぱいのパフォーマンスで滋賀の魅力をアピールした。各大学から参加した学生は、下記の通り。

《滋賀大学》

滋賀大学から経済学部アカペラサークル「Decorate Box」が出演した。アカペラとは楽器を使わず、声だけで演奏する音楽のことである。楽器を使わず大きな声でアカペラの楽しさ、素晴らしさを迫力たっぷりに演奏する学生のステージに足を止めて聞き入る人も多く、大きな拍手がおくられていた。

《成安造形大学》

成安造形大学の学生が取り組んだのは、若さと活力、豊かな感性と創造力を発揮した滋賀らしさをアピールするライブペインティング企画。横6m、縦1.7mの巨大なキャンバスに「滋賀、名物大集合！」をテーマに、滋賀の様々な名産品を紹介するたくさんの信楽焼の狸を描いた作品に色を塗り無事完成。9月23日には嘉田知事、成安造形大学の牛尾学長などが参加してライブペインティング完成披露が行われ、参加者から盛大な拍手がおくられた。

《長浜バイオ大学》

長浜バイオ大学からは、「ダブルダッチサークル～Lonvich～」が出演した。ダブルダッチとは、音楽に合わせて2本の縄を交互に回して、その中でダンスやアクロバットなどを行うストリートパフォーマンスである。ステージの上を所狭しと飛び跳ねる、若さとパワーに溢れた学生のパフォーマンスを初めて見る人も多く、写真を撮影したり、大きな拍手と声援を送る人が多く見られた。

《立命館大学》

立命館大学から「書道部」が出演した。書道部の学生は、ステージの上で音楽に合わせて踊りながら、滋賀の観光資源や物産などをアピールする文字を筆で書き力強くアピール。こうした書道部学生のパフォーマンスを初めて見る人も多く、大きな拍手がおくられた。従来の書道の概念とは異なる、若さと躍動感にあふれる学生の書道パフォーマンスは、斬新なスタイルで滋賀の魅力をアピールした。

4. 会員組織の拡大

正会員入会：甲賀市（平成25年6月）

連携会員入会：滋賀県商工会議所連合会、滋賀県商工会連合会、一般社団法人滋賀経済産業協会、
公益社団法人びわこビジターズビューロー（平成25年6月）

5. 本法人の事務所移転に関する取組状況

(1) 移転に関する経過

| | | |
|---------------|--------|---|
| 平成24 (2012) 年 | 10月30日 | アル・プラザ大津閉店に関する説明会実施 |
| | 11月26日 | 第4回幹事会に進捗状況報告 |
| 平成25 (2013) 年 | 1月21日 | 第5回幹事会で移転先確保の進捗と情報提供の協力依頼 |
| | 3月7日 | 第6回幹事会で移転先確保の進捗と情報提供の協力依頼 |
| | 3月28日 | 平成24年度第2回総会に移転先確保の進捗と情報提供の協力依頼 |
| | 5月17日 | 第1回幹事会に事務所移転先としてA案(日本生命大津ビル)とB案(守山市内)を提案。審議の結果、A案とし、滋賀大学と共同入居することを確認。 |
| | 6月7日 | 平成25年度第1回総会に事務所移転先として日本生命大津ビルとすること、滋賀大学との移転及び管理経費の負担割合について提案し、審議の結果、承認。 |
| | 7月29日 | 第2回幹事会に新事務所のレイアウト案と移転日程を提案し、承認。 |
| | 9月14日～ | 新事務所間仕切り、室内内装工事实施 |
| | 9月28日 | アル・プラザ大津から日本生命大津ビルに事務所移転 |
| | 9月30日 | 第3回幹事会を日本生命大津ビルで開催 |
| | 10月1日 | 日本生命大津ビルで執務開始 |

(2) 移転関連経費(経費内訳資料は総会当日に配布)

- ① 移転関連初期経費
- ② 年間事務所管理経費

(3) 会議室・セミナー室の利用

会議室(定員60名)とセミナー室(12名/20名)を滋賀大学と共同利用することとし、第3回幹事会(9月30日)において施設使用に関する申し合わせ事項を確認した。

使用範囲: 当コンソーシアム正会員のみとする

使用時間: 月曜日～金曜日までの午前10時～午後6時

使用申込: 前日までに使用申込書を事務局に提出する

使用料: 無料

なお、使用の詳細については事務局まで気軽に問い合わせください。